

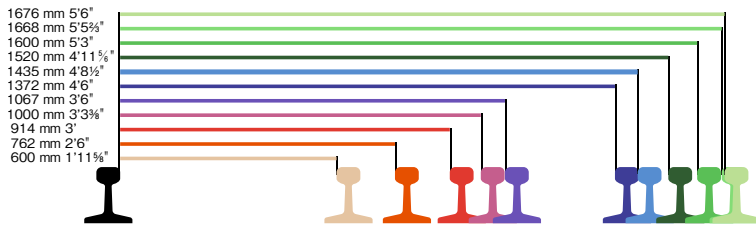


未来をつくる ソーシャルイノベーション 第2部

文・西村勇哉

暮らしの中から見つける変化の力

CASE: 55 線路 — 隣接可能領域で生まれる変化 —



世界に存在する主なレールの幅。最小381ミリから最大2140ミリまで幅がある。4フィート8.5インチは標準軌と呼ばれ、世界中に広がっている。
出典：Wikimedia Commons

POINT!

偶然生まれたものが広がりとともに基準化され、その広がりが理由となって新たな変化の幅を規定する起点となる。



ギリシャにあるコリントス地峡のディオルクス。鉄道のプロトタイプとして1500年にわたって使用されてきた。
©Dan Diffendale
[CC BY-SA 2.0(<https://creativecommons.org/licenses/by-sa/2.0/deed.en>)]

今回は、線路の歴史とともに、変化が生まれる隣接可能領域について見ていきます。

ディオルクスは、紀元前600年ごろに造られた古代ギリシャのコリントスの地峡にある舗装道路です。当時、主な輸送手段であった船を一時的に陸揚げ、6〜8.5キロの区間を、車輪を用いた輸送が行われていました。ディオルクスは、あらかじめ用意された軌道の上を車両が誘導し、牽引によって運搬することから、鉄道の起源と考えられています。ディオルクスの仕組みによって、船は強風で危険なペロポネス半島の周囲の航海を避け、安全に移動することを可能にしました。

やがて時代が移り、1814年にイングランドの北東部にあるキングワースで、ジョージ・ステイブソンが炭鉱鉄道のための蒸気機関車を製造し、蒸気機関車による鉄道の歴史が始まります。1830年には、世界初の旅客用鉄道リバプール・アンド・マンチェスター鉄道が造られます。この時に用いられた線路は、馬車の車輪の幅と同じ4フィート8.5インチでした。その後、この4フィート8.5インチのレールが、イングランド各地で起こった新たな鉄道プロジェクトで採用されていきます。

一方で、1833年に創業したグレート・ウェスタン鉄道では、7フィート4分の1インチの幅の広いレールが

採用され、1844年に両レールが同じ時点で接することになります。どちらの幅が適切かをめぐる論争は、王立委員会によって最終的に、幅の広いレールのほうがわずかに安全性の面で優れているものの、既に敷設されたレールの量が多いことを理由に、4フィート8.5インチを標準とする勧告が行われます。1846年には、法律で4フィート8.5インチのレールが標準であることが定められ、イングランド各地の鉄道レールの幅は4フィート8.5インチで統一されていきました。ヨーロッパ各国や、アメリカ、中国でも、イギリスが鉄道敷設に携わったことから4フィート8.5インチのレールが標準軌として用いられていきます。安全面と輸送量の面では有利であった幅の広いレールに対して、既存の広がりや背景に幅の狭いレールが標準化され、広がっていきます。既存のもの存在が、新たに生まれるものに対する制約となります。変化は、既存のものとの隣接可能領域で実現し、起



にしむら・ゆうや ● NPO法人ミラツク代表理事。
大阪大学大学院にて人間科学の修士を取得。人材育成企業、財団法人日本生産性本部を経て、2008年より開始したダイアログBARの活動を前身に2011年にNPO法人ミラツクを設立。Emerging Future, we already have(すでに在る未来の可能性を実現する)をテーマに、全国横断型のセクターを超えたソーシャルイノベーションプラットフォームの構築と未来潮流に基づいた新規事業創出のためのプロジェクト運営に取り組む。
<http://emerging-future.org>

りやすくなります。